

シンガポールにおける幼児教育・保育について — 多民族・多文化共生の保育に着目して —

About Early Childhood Care and Education in Singapore -Focusing on childcare for multi-ethnic and multicultural coexistence-

小 栗 正 裕*・宮地 あゆみ**

Masahiro Oguri・Ayumi Miyadi

はじめに

最近、日本社会においてグローバル化の進展が著しい。2023（令和5）年6月末現在で、日本における在留外国人の数は約322万人で¹、日本の人口に占める割合は約2.6%となっている²。そのうち0～4歳の在留外国人も約9.6万人であり、幼稚園・保育所・認定こども園においても外国人の子どもの就園が進み、多民族・多言語・多文化化へと向かっているものと考えられる。こうした多民族・多言語・多文化化した社会における保育の姿として、どのようなものが今後考えられるであろうか。本稿ではその示唆の一つとして、多民族・多文化・多言語社会であるシンガポールの保育施設を例として、探ってみることとしたい。

I シンガポールの成り立ち

シンガポール共和国（以下、シンガポール）は東南アジアのマレー半島の先端付近に存在する島国である。面積は約720平方キロメートルで東京23区よりやや大きい程度である。人口は約564万人（2022年現在）で、うち中華系が約74%、マレー系が約14%、インド系が約9%の多民族国家である³。国語はマレー語とされるが、公用語は英語、中国語、マレー語、タミール語である。このうち英語は教授言語であり、

その他3言語がそれぞれの民族の母語である⁴。1400年頃にマラッカ王国が建国、1819年に英国人ラッフルズが上陸し、1824年に英国植民地となる。太平洋戦争中には日本軍による占領期を経るが、1959年に英国より自治権を獲得。1963年にマレーシア成立によりその一州となるが、1965年にはマレーシアより分離してシンガポールが成立した⁵。今日ではアジアにおける世界のハブとして高い国際競争力を持ち⁶、高度なグローバル化を遂げている。

II シンガポールの教育制度

シンガポールは都市国家であるため地方自治体は存在せず、国が教育全般を管理・管轄している。国の教育行政機関である教育省はカリキュラムを含む教育政策の計画・実施を担い、就学前から高等教育まで全ての教育機関の監督も行う⁷。国土が小さく資源も少ない中であって国際競争力を発揮するために、「人は唯一の資源」とされ、経済、開発、教育は一体と考えられてきた⁸。そのためシンガポールでは教育への投資が大きく、教育省の予算は政府支出の約15%を占めており、能力による振り分けを行うメリトクラシー政策がとられる⁹。義務教育は6～12歳の6年間であり、初等学校における初等教育がそれにあたる。初等学校修了後に修了試験（PSLE）が課され、その結果により中学校でコースが分かれ、それにより修了年限が

* 福岡女学院大学

** 九州大谷短期大学

異なる。コースによりそれぞれ、GCE-N (Normal)、GCE-O (Ordinary) の資格試験を受験する。GCE-O 資格の取得後、大学進学希望者はジュニアカレッジ・中央教育学院（2～3年）に進学し、大学入学資格である GCE-A (Advanced) の資格試験を受ける。職業教育としてはポリテクニク、技術教育学院 (ITE) がある。ポリテクニクは GCE-O を要件とし、高等教育レベルのプログラムが提供される。技術教育学院は GCE-O または GCE-N を要件とする。^{10 11}

シンガポールの教育では基本的に二言語教育政策が採られている。英語は教授言語（共通言語）として必須であり、これにマレー系はマレー語、中華系は中国語（シンガポールでは華語と呼ばれる北京語）、インド系はタミール語といった母語の教育が行われる。¹²

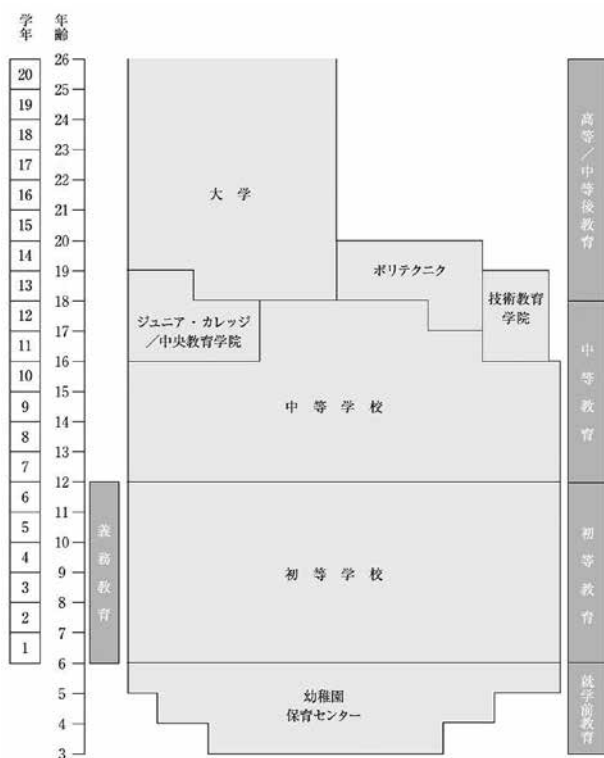


図1 シンガポールの学校系統図¹³

幼児教育・保育は教育省が管轄する幼稚園と社会・家族開発省が管轄するチャイルドケアセンターの2種類がある。幼稚園は日本と同じく就学前の3年保育（4～6歳）で就学準備を目的としており保育時間は3～4時間、学校と同じく長期の休みがある。チャイルドケアセンターは保護者のニーズに応じて子どもを預かるもので、18か月～6歳児を対象とする。この他、2～18か月児を対象とするインファントケア

もある。保育時間は12時間までとなるが、保護者の就労状況に合わせて全日、半日、フレキシブルなどの形態がある。より効果的に幼児教育・保育を提供するために、省の枠を超えて政策実行を可能とする幼年期開発局を2013年に設置し、教育省と社会・家族開発省の監督の下で幼稚園とチャイルドケアセンター両方の統括にあたっている。2003年に教育省より就学前教育のガイドラインが出され、その後2012年に改訂が行われている。このガイドラインは「Nurturing Early Learner : NEL」と呼ばれ、幼稚園・チャイルドケアセンターの両方に対し、4歳から6歳までのカリキュラムの枠組みが示されている。NELでは子どもを「好奇心に満ち、能動的で有能な学び手」と定義し、遊びと体験が重視される。そして「真正的・創造的表現」「世界の発見」「言語とリテラシー」「運動技能の発達」「ニューメラシー（数的思考能力）」「社会的・情緒的発達」の6つの「学びの領域」が示され、それぞれにリソースブックが4公用語にて発行されている。また、3歳以下については2011年に出された「Early Years Development Framework : EYDF」がある。^{14 15 16}

Ⅲ シンガポールの保育の実際

1. 訪問の概要

筆者らは、2024年2月23日（金）13:00～14:30までの1時間30分ほどで、シンガポールのA保育所を訪問した。A保育所は、シンガポール中心部から自動車で約30分の住宅地に位置しており、周囲には団地の集合住宅が建ち並ぶ。A保育所はシンガポール国内にて、インファントケア1か所、チャイルドケアセンター3か所、スチューデントケアセンター（学童保育所）2か所を展開している事業者が運営する施設のうち、チャイルドケアセンターの一つになる。中華系、マレー系、インド系など多民族の子どもが通園している。今回、説明や対応をして下さったのは、施設の取締役（Managing Director）のB氏と、園長および現場の保育士である。訪問時は午睡の時間に重なっており、実際の保育の参観は行っていない。

2. デイリープログラム

A 保育所では、デイリープログラムが各保育室に掲示されている。本稿では18～30か月児と3歳児のデイリープログラムをそれぞれ表1、表2に示す。全体的に、学びの領域を意識した保育や「MSD¹⁷」「Phonics¹⁸」など、子どもの能力開発を意識したメソッド、教材を取り入れているなど、「人は唯一の資源」としての高いレベルの学校教育に繋がる保育が意識されており、また複数言語による保育が行われるなど多民族・多文化共生を意識した保育内容であることが見て取れる。午前中には統合テーマによる保育活動や屋外遊びを、昼食、午睡、おやつを挟んで午後には日替わりで領域を定めた保育が行われる。統合テーマとは、その日のコアとなるテーマやトピックに全ての学習内容を関連付けるものである。¹⁹

人口の約74%が中華系ということもあってか、中国語による統合テーマの保育の時間が月曜日から金曜

日まで、毎日30分設けられている。また、英語による統合テーマの保育の時間も月曜日から金曜日まで、毎日18～30ヶ月児は30分、3歳児は45分間設けられている。

また、午後のテーマを定めた保育の時間のうち水曜日には「世界の発見」をテーマとした保育の時間が設けられている。先述の通り「世界の発見」はNELの6領域の1つにも含まれる。このNELのこの領域は子どもたちが身近な環境について調べ、情報を収集し、記録して発信する活動を重視しており、その対象としては日本における領域「環境」に近いが、教師の支援で子どもが主体的な探究活動を行う内容として、「人と文化（家族や友人、コミュニティ、多文化主義、多様性）」が含まれている²⁰。このように幼児期から多文化や多様性に視野を向けた保育内容が取り入れられている。

表1 18～30ヶ月児のデイリープログラム²¹

成長する幼児— (18 ～ 30 ヶ月)						
時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
7:00 ～ 8:00	登園 / 目視による健康チェック / 自由遊び (異年齢混合保育)					
8:00 ～ 9:00	朝食 / 水分補給 / トイレ					
9:00 ～ 9:15	集会－国歌斉唱、誓い、運動 (異年齢混合保育)					
9:15 ～ 9:45	中国語統合テーマ					自由遊び
9:45 ～ 10:00	水分補給 / トイレ					
10:00 ～ 10:30	英語統合テーマ					
10:30 ～ 10:45	おやつ / 水分補給 / トイレ					
10:45 ～ 11:30	屋外遊び / MSD					
11:30 ～ 12:45	昼食 / 健康チェック / シャワータイム					
12:45 ～ 13:00	読み聞かせ / ミルク					
13:00 ～ 15:00	午睡 (全日保育の場合 / 土曜日は午後2時まで) / 降園					
15:00 ～ 16:00	午睡後の健康チェック / 水分補給 / トイレ / おやつ					
16:00 ～ 16:30	実践的な生活技能	音楽と動作	料理 / 世界の発見	実践的な生活技能	アートとは何か	
16:30 ～ 17:00	音楽と動作	Phonics で歌う (16:45 ～ 17:15)	料理 / 世界の発見	Phonics で歌う (16:45 ～ 17:15)	アートとは何か	
17:00 ～ 18:00	操作的な遊び (異年齢混合保育)					
18:00 ～ 19:00	自由遊び (異年齢混合保育) / 降園					

表2 3歳児のデイリープログラム²²

知的な探究者ー（3歳）						
時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
7:00～8:00	登園／目視による健康チェック／自由遊び（異年齢混合保育）					
8:00～9:00	朝食／水分補給／トイレ					
9:00～9:15	集会－国家斉唱、誓い、運動（異年齢混合保育）					
9:15～10:00	屋外遊び／MSD					自由遊び
10:00～10:30	中国語統合テーマ					
10:30～10:45	おやつ／水分補給／トイレ					
10:45～11:30	英語統合テーマ					
11:30～12:45	昼食／健康チェック／シャワータイム					
12:45～13:00	読み聞かせ／ミルク					
13:00～15:00	午睡（全日保育の場合／土曜日は午後2時まで）／降園					
15:00～16:00	午睡後の健康チェック／水分補給／トイレ／おやつ					
16:00～16:30	音楽と動作	音楽と動作	料理／世界の 発見	実践的な 生活技能	アートとは 何か	
16:30～17:00	音楽と動作	コーナー保育	料理／世界の 発見	コーナー保育	アートとは 何か	
17:00～18:00	操作的な遊び／Phonics Explorer－火・木曜日（17:15～17:45）					
18:00～19:00	自由遊び（異年齢混合保育）／降園					

3. 多民族・多文化の保育環境

訪問当日の保育室には写真1のように春節の飾りつけが施されていた。この年の春節（中国における旧正月）は2月10・11日であり、この前後それぞれ2週間ほど、街中はお祭りムードに包まれる。この日のおやつは中国の春節を祝う餅だとのことである。中華系が人口の約74%を占めるシンガポールでは春節は中華系のみならず、社会全体で共有されて盛大に祝われる祝日となる。A保育園では春節に限らず、民族の



写真1 春節の飾り

文化や行事は積極的に保育に取り入れているとのことである。こうした社会における文化は保育においても大切にされている。

なお、シンガポールではクリスマスや聖金曜日などキリスト教の祭日、断食明けや聖地巡礼祭などイスラム教の祭日、仏誕祭など仏教の祭日も祝日となっている。²³

また、写真2のように、子ども達の作品を掲示する際にも、英語と中国語で作品展示の記載がされており、写真3の教材棚においても英語と中国語の両方の言葉で表示がされていた。このように、室内環境のほぼ全ての掲示が英語と中国語の両方でなされている。

一方、個人情報であるため写真の掲載は避けるが、子どものロッカーや靴箱の名前の札は、英語、中国語、マレー語、タミール語の4つの言語で記載されている場所もあり、その子どもが日常的に話す母語を尊重した配慮がなされていることがわかる。



写真2 子どもの制作物（クリスマスツリー）

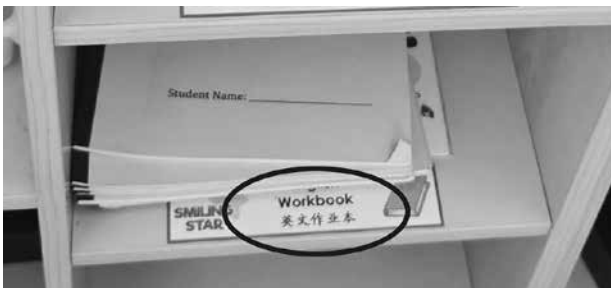


写真3 教材棚に貼られた札

また、先述のように教授言語（共通言語）として重視される英語については、写真4のように数字と並んでアルファベットを学ぶための壁面構成がなされている。保育内容においても Phonics が取り入れられるなど英語が重視されているが、環境構成を通して英語に触れることができるように意識されている。



写真4 言語と数字の壁面

IV 考察

1. 多民族・多文化共生

先述の通りシンガポールは中華系、マレー系、イン

ド系が共に暮らす多民族国家・社会であり、また多宗教であるゆえに多文化でもある。国自体でもそれぞれの民族、宗教の祭日を祭日に定めるなど社会全体に多民族・多文化共生といった雰囲気がある。それぞれの民族・文化が社会全体で共有されており、それが保育においても子どもたち全体で共有できるということは、多文化共生の保育として望ましいあり方であると考えられる。

一方、保育の中で用いられる言語が英語と中国語が中心となるなど、多言語という点から考えれば難しさも抱えていると思われる。シンガポール全体においても英語の重要性が高いことから、現在では家庭でも英語を使用していることが多く、英語が事実上の母語となっている²⁴とも言われる。国や社会全体が多民族・多言語であるからこそ、学校教育における教授言語（共通言語）が必要であり、またシンガポールがアジアにおける世界のハブとしての役割を果たすにあたっては世界共通の言語である英語がそれとして最もふさわしいということになる。また、保育に用いられるもう一つの言語が中国語となることについてはシンガポールの人口の約74%が中華系と圧倒的多数であり、中国語の話者が多数となることが背景であることは容易に想像できる。例えば池田は、インド系住民であってもタミール語より中国語を習った方が有利と考えて、園児のほとんどが中華系であるチャイルドケアセンターに子どもを通わせる親が増えていることを報告している²⁵。

実は公用語、母語として教育されている英語を除く3言語はそれぞれの民族が実際に話す母語とは乖離があり、例えば中華系では北京語ではなく福建語や広東語などが話され、インド系ではヒンディー語など多様な言語が話されてきた²⁶。

こうした中、みんなが共通言語あるいは多数派の言語に集約されていくのではなく個々のルーツとなる民族の言語を母語としてどのように尊重していけるか、ということが課題とも思われるが、国や社会における英語や中国語の重要性が高い中、非常に悩ましい課題でもある。

2. シンガポールの教育制度全体との関連で

先に述べたように、シンガポールの教育制度におい

ては初等教育から厳しいふるい分けにさらされることになる。初等学校の修了試験（PSLE）の結果により中等教育以降の進路が分かれていくため、その成績がその後の人生を左右すると言っても過言ではない。そのため、幼児教育はその初等教育に繋がる準備教育という性格を帯びやすい。特に、幼児教育でも二言語教育政策を反映して英語が重視されていることは特徴的である。初等教育においては、授業時間の約6割に語学、2割が数学、残りの2割に道徳、科学、社会、美術、音楽、体育が組み込まれ、英語と母語の二言語能力優先となっている²⁷。その中で優秀な成績をとっていくために、それ以前のできるだけ早い段階で英語の能力を高めていくことは、保育において重要な関心事となっている。また、シンガポールのNELにおいても子どもを主体として遊びを中心とすることが示されるが、実際に行われる活動は獲得する知識・技能が明確となるものであり、「遊びを通した学び」と言ったときに、どちらかと言えば「学び」に力点が置かれる。爾はシンガポールの乳幼児教育のカリキュラムについて、日本よりも「試行と推論」を重視していると評している²⁸。

シンガポールの子どもの学力は世界的にも極めて高く、2023年のTIMSS（国際数学・理科教育動向調査）においては小学校4年生、中学校2年生の算数・数学、理科全てにおいて世界1位²⁹、2022年のPISA（生徒の学習到達度調査）でも数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシー3分野全てにおいて世界1位³⁰と、国際学力調査のトップを独占する。これは幼児期からのこうした高いレベルの教育の成果でもあろう。

おわりに

本稿ではシンガポールの保育の実際を通して、多民族・多文化共生の保育のあり方について探ることを試みた。

シンガポールは中華系、マレー系、インド系などが生活する多民族国家であり、ゆえに多言語、多宗教、多文化の社会である。さらにアジアにおける世界のハブとして高度にグローバル化した社会である。英語を教授（共通）言語とするが、民族の母語（実際には乖

離はあるものの）との二言語教育政策が取られている。保育においてはそれぞれの民族の文化や祝日、行事が取り入れられ、また多文化主義、多様性に目を向けた保育が取り入れられていることがわかった。しかし、共通言語である英語の重要性が非常に高いこと、中華系が圧倒的多数であることもあり、二言語が英語と中国語に集約される傾向も感じられた。

今日の日本でもグローバル化の進展が著しく、多民族・多文化の方向に向かいつつある。シンガポールの保育からの示唆としては、多文化における祝日や年中行事について知るなど、保育における遊びや活動の中で多文化・多様性に目を向けていく機会を適切に織り込んでいくことが挙げられる。

日本においては二言語教育政策は取られておらず、英語を話す機会も多くない。英語の能力を高めていくことを意図している幼児教育は、一部の早期教育的な幼児教育施設に限られる。筆者らもこれを広め、進めていくべきとの立場は取らない。しかしながら日本における在留外国人の家庭の子どもたちは既に、家庭における母語と生活する社会における言語すなわち日本語の二言語に囲まれて過ごしている。英語を重要視しながら母語の教育も重視するシンガポール政策そのものの、二言語による保育の方法からはルーツとなる民族の言語を守る姿勢の大切さとそのあり方が示唆される。

保育の場が多民族・多文化化していくにあたっては、保育者一人ひとりが外国や異なる文化に関心を向け、目を向けてどのように保育に織り込み展開していくか、ということを考えていくことが求められよう。多言語ということについては現在、養成レベルにおいてそれを意識して行う養成校は少ない。しかし、今後求められる課題として、そのあり方を検討していくことが必要であろう。

謝 辞

お忙しい中にもかかわらず筆者らの訪問を受け入れ下さり、丁寧なご案内をして下さいました保育施設の取締役、職員みなさまに感謝申し上げます。また、今回の訪問の機会の設定のためにご尽力下さり、当日も通訳としてご協力下さいました Anglo-Chinese

Junior College の LeH Hwa 様に感謝申し上げます。

【註】

- ¹ 法務省 2023「在留外国人統計（2023 年 6 月末）」
- ² 総務省概算値の人口により計算
- ³ 外務省ホームページ「シンガポール共和国 基礎データ」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html>（2024/10/14 アクセス）
- ⁴ 大和洋子 2022「建国 57 年を迎えるシンガポールの言語政策—母語教育に関する一考察」日本教育学会大会研究発表要項（81），p.276
- ⁵ 外務省 前掲書
- ⁶ 国土交通省国土政策局 2014「シンガポールの観光・経済社会について」
- ⁷ 株式会社富士通総研 2021『新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業（多様な通信環境に関する実証（諸外国における教育の情報化に係る教育行財政状況調査研究））調査報告書』，p.58
- ⁸ けんしんシンガポールレポート 2020「シンガポールの教育制度」長野県信用組合シンガポール駐在員事務所
- ⁹ シム チュン キャット 2024「シンガポールの教育制度におけるリーダー育成と教育格差の是正—日本の教育制度への示唆」平和政策研究所ウェブサイト
<https://ippjapan.org/archives/8337>（2024/10/14 アクセス）
- ¹⁰ 文部科学省ホームページ「世界の学校体系 シンガポール共和国」
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2017/10/02/1396848_004.pdf（2024/10/14 アクセス）
- ¹¹ 科学技術振興機構 さくらサイエンスプログラム「教育および科学技術に関する各国・地域の調査結果 シンガポール共和国」<https://ssp.jst.go.jp/survey/singapore.html>（2024/10/14 アクセス）
- ¹² 氏家（小澤）佐江子 2020「シンガポールの言語政策と多言語主義」アジア英語研究（22），日本「アジア英語」学会，p.61
- ¹³ 文部科学省ホームページ 前掲書（2024/10/14 ア

クセス）

- ¹⁴ 埋橋玲子 2016「シンガポールの幼児教育・保育（1）：概況と背景」同志社女子大学学術研究年報（67），pp.60-64
- ¹⁵ 爾寛明 2021「乳幼児期における多文化共生カリキュラム—シンガポールの乳幼児教育カリキュラムと日本のカリキュラムとの比較を通して考える」桜美林大学研究紀要・社会科学研究（2），pp.76-77
- ¹⁶ 埋橋玲子 2017「シンガポールの幼児教育・保育（3）：カリキュラムの枠組みに注目して」同志社女子大学学術研究年報（68），pp.47-50
- ¹⁷ 屋外活動を通して行う幼児の運動能力開発
- ¹⁸ 英語の綴りと発音の規則性を学び英語を正しく読めるようになるための学習法
- ¹⁹ 池田充裕 2009「シンガポールにおける幼児教育・保育の成立過程とその現状」幼児教育史研究（4），幼児教育史学会，p.54
- ²⁰ 李霞 2022「シンガポールの幼児教育課程編成における「地域資源利用」の構想と実際」地域連携教育研究（7），京都大学学際融合教育研究推進センター地域連携教育研究推進ユニット，pp.42-44
- ²¹ A 保育所に掲示されていた Timetable を筆者らが翻訳
- ²² A 保育所に掲示されていた Timetable を筆者らが翻訳
- ²³ 世界の祝日・休日カレンダー「シンガポールの休日・祝日カレンダー」<https://public-holiday.org/asia/singapore.html>（2024/11/22 アクセス）
- ²⁴ 大和洋子 2022 前掲書，p.277
- ²⁵ 池田充裕 2009 前掲書，p.56
- ²⁶ 氏家（小澤）佐江子 2020 前掲書，pp.61-62
- ²⁷ 岡本佐知子 2014「シンガポールの教育システムとマンパワー政策」北海道文教大学論集（15），p.113
- ²⁸ 爾寛明 2023「シンガポールの学校教育における乳幼児教育の位置づけについて—日本との保育者養成課程の違いを通しての考察」桜美林大学研究紀要社会科学研究（3），p.66
- ²⁹ 国立教育政策研究所 2024「IEA 国際数学・理科教育動向調査 TIMSS2023 の結果（概要）」
- ³⁰ 国立教育政策研究所 2023「OECD 生徒の学習到達度調査 PISA2022 のポイント」